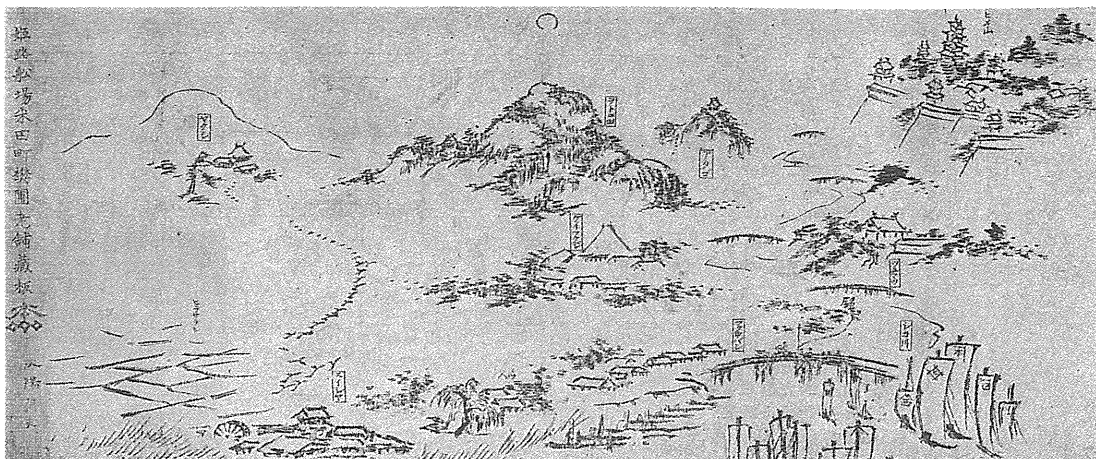


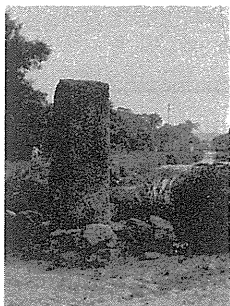


『船場』をたずねて



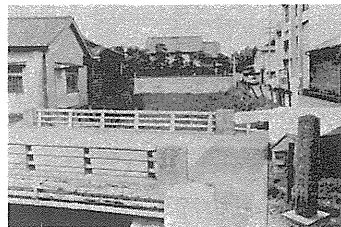
姫路船場八景 天保10年(1839)

船場は、船場川以西を中心に北は男山あたりから南は大蔵前町(旧町名)・千代田町、西は薬師山あたりまでをさしていた。この地域は、天正8年(1580)にはすでに龍野町が成立しており、ほぼ同じころに小姓町もでき、姫路城下町発展の先駆けとなった。元和7年(1621)ごろ船場川が改修され、飾磨港との間に水運が盛んになると、材木町・小利木町・博労町・大蔵前町などが発達していった。藩主^{さかさばら}榊原氏の時代(1649~1667)の絵図には、さかんに「船場」の名が用いられるようになっている。その後、大正15年の耕地整理、昭和初期の国道改良工事により、現在の国道2号線近辺には多くの新町が誕生し、北部では、岩端町以北もしだいに人家が増え、やがて「船場」・「城西」と区域を別にするようになった。



船場川改修記念碑

船場川 もと、市川の本流の跡と推定されている。妹背川・三和川などとよばれていたが、姫路藩主本多忠政が元和年中(1615~1624)に改修して城下から飾磨港へ通じる舟運の便を開いてから船場川とよばれるようになった。船場川を上下する高瀬舟は竿と人力で運行された。おもな積み荷は、米・木綿・薪・炭・鱒・塩などであった。この舟便は明治4年ごろまでつづいた。**船場川改修記念碑** 小利木町の東、清水橋の近くにある。長い間川底に埋もれていたので文字はまったく読めないが、元禄8年材木町材木屋共口上書に「末世の御印として清水御門の外、河向に御立石仰せ付けなされ………」と記されており、改修記念碑と断定してよからう。



舟入川(昭和45年ごろ)

市之橋 材木町や小利木町のあたりの船着場に市が開かれて栄えたが、この市から橋の名がつけられた。

舟入川 材木町と吉田町の境、炭屋橋の西にある。船場川を上下する舟をつないだり、荷物を積みおろしたところ。今、小さな公園になっている。



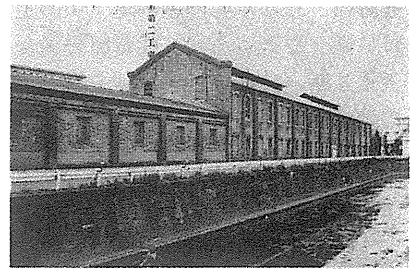
常夜燈



網干・室津道



千代田町の道標



レンガ造りの工場

千代田町の常夜燈 千代田町公園内にある。慶応四年(1868)につくられた。下の台に「あぼし むろ つみち」と刻まれている。もと、室街道の出口にあったのをここに移した。

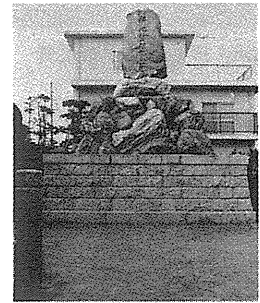
千代田町の道標 「あぼしみち」と刻まれ、この南北の道が網干・室津へ通じる道であった。

レンガ造りの工場 千代田町にある。明治34年の地図に「燐寸製造所」とあり、そのころからの建物と見られる。姫路ではレンガ造りの建物はほとんど見られなくなり、貴重である。現在、山陽色素(株)第二工場となっている。

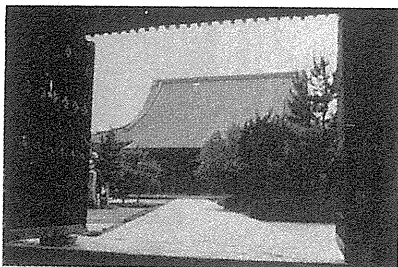
千代田遺跡 三菱電機姫路製作所の構内に所在する。大正5年、この地に日出紡績会社を建設の時、弥生式土器・貝殻・石器などが発見された。

耕地整理記念碑 花影町2丁目にある。この地域一帯は「福沢町」と呼ばれ、博労町・船場本徳寺から西はほとんどが田畑であった。右の碑は、大正11年(1922)、この地を耕地整理する計画が立てられ、同13年起工、同15年竣工し、同年船橋・東雲・花影・神田・定元の町が生まれたことを記したもの。

薬師山 播磨風土記の十四の丘の一つである「琴丘」がこの山であると推定されている。薬師山とよぶようになったのは、元和9年(1623)里人が田を耕している時に石の薬師仏を発見してこの山に安置し、その後、姫路藩主本多忠政の奥方の信仰厚く小堂を造ったころからである。



耕地整理の記念碑



船場本徳寺 (現本堂は享保3年(1718)の建立)

この石仏は今、山の南坂下に安置されている。**船場本徳寺** 地内町にあり、通称「御坊さん」でとっている。東本願寺(浄土真宗大谷派)

の別院。姫路藩主本多忠政が、地内町の旧池田家臣屋敷百間四方を寄付し、池田家の菩提寺であった国清寺の建物を与えて、元和4年(1618)に完成した。当寺は安らぎの場だけでなく、船場地区の繁栄にも大きく貢献している。明治6年、旧制姫路中学校の前身ともいうべき勸開中学校がここで開校し、明治20年には崇徳学校を開校し、一時は児童数360余名にも達したといい、教育の発展にも寄与している。門前には、元禄9年(1696)に寄進された石燈籠、境内には、薬師山から移した明治維新の勤王の志士12名の墓石や西南の役記念碑がある。

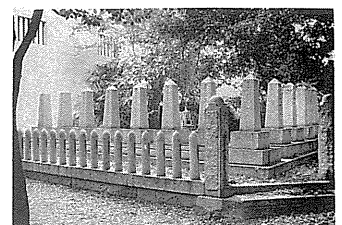


石燈籠

西南の役記念碑 明治10年(1877)の西南の役で姫路營所の戦歿兵767名の霊を弔うために建設されたもの。明治12年、薬師山上に竣工したが、昭和41年琴陵中学校を建設するため、同碑は船場本徳寺境内に移された。



西南の役記念碑

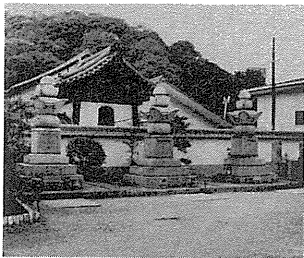


勤王志士の墓碑

龍野町 むかしの西国街道（山陽道）筋に栄えた町。この街道が龍野に通じるところから龍野町の名がつけられた。町の起こりとして、天正8年（1580）、英賀城を攻略した秀吉が、英賀の町人百姓をこの地に移らせたという説が強い。この年の10月には、自由に商売ができる楽市の制札を出している。今は、古い商家の姿もなくなってしまったが、龍野町5・6丁目や農人町の道路は鋸の歯のようにジグザグで、城下町の面影を残している。

景福寺山 播磨風土記の十四の丘の一つである「船丘」がこの山であると推定されている。その後、西岸寺山・孝顕寺山・嵐山・群鷺山などと呼ばれてきた。山下の寺が景福寺となつてから今のように呼ぶようになった。山上には、姫路藩主松平明矩（1748歿）の墓碑がある。

景福寺 瑞松山と号し、曹洞宗の寺院である。寛文年中（1661～1673）城主松平直矩によって再興され、のちに、酒井氏代々の菩提寺となった。境内に酒井忠学・忠宝・忠績の夫人の墓がある。明治11年、旧制姫路中学校の前身である六郡（飾東・飾西・神東・神西・加西・印南）組合立姫路中学校が景福寺で誕生した。しばらくの間、飾磨県の庁舎にもなった。



姫路藩主酒井家の墓碑

見星寺の菩提碑 船場川は、幾たびか大水を出している。とくに、寛延2年（1749）の洪水は船場地区に大きな被害をもたらした。この菩提碑は、安永2年（1773）に23回忌の法要で造られたもの。

船場死人

| | | | |
|--------|-----|--------|------|
| 備前町 | 4人 | 御蔵前町 | 4人 |
| 博労町 | 46人 | 農人町 | 13人 |
| 小利木町 | 18人 | 龍野町2丁目 | 23人 |
| 龍野町1丁目 | 12人 | 龍野町3丁目 | 2人 |
| 龍野町5丁目 | 1人 | 米田町 | 13人 |
| 上片町 | 30人 | 下片町 | 11人 |
| 吉田町 | 52人 | 増位町 | 93人 |
| | | 材木町 | 93人 |
| | | メ | 322人 |

城下町ができるまでの船場

龍野町などが誕生するまでは、中村と呼ばれていた。中村は、姫山の南から西は今の西新町あたりまで、北は西光寺（今の柿山伏あたりか）までという大きな村であった。南には福中村があった。材木町南か吉田町あたりを西野といい、その北を西城戸・岡と呼んでいた。西新町にはおよそ二百メートル四方の境内をもつ願道寺があった。大永元年（1521）の臨時祭（三ツ山）に中村や福中村が活躍した記録がある。

条々 龍野町

一、当龍野町市日之事 先規の如く罷立つべき事

一、市之日 諸商人廻らむべからざる事

一、同諸公事役これあるべからざる事

以上

天正八年十月二十八日

藤吉郎 花押

秀吉の制札



姫路藩主松平明矩の墓

可上流小津中津野人かひし

一、御蔵前町 4人

一、博労町 46人

一、小利木町 18人

一、龍野町1丁目 12人

一、龍野町5丁目 1人

一、上片町 30人

一、吉田町 52人

一、御蔵前町 4人

一、農人町 13人

一、龍野町2丁目 23人

一、龍野町3丁目 2人

一、米田町 13人

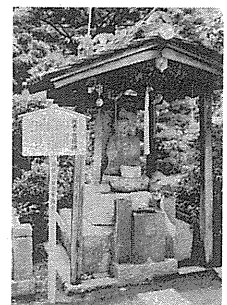
一、下片町 11人

一、増位町 93人

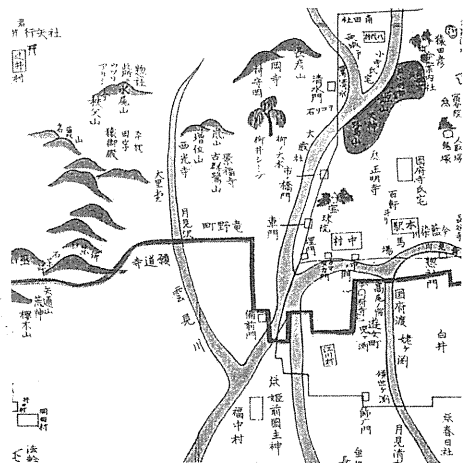
一、材木町 93人

一、メ 322人

洪水時の記録



見星寺の菩提碑



天正（1573～1592）の古地図

編集 出口隆一（姫路市文化財嘱託調査員）
（姫路市立高丘中学校教諭）